

2016年8月23日  
次世代歴史教育研究会キックオフ会合

# ヨーロッパの大学における 歴史教育の現状と 日本での課題

竹中 亨（大阪大学）

## 学習者中心主義の必要性

学生の多様化

高等教育の普及 ⇒ 出自・境遇・知的傾向等の多様化

修学パターンの多様化

① リカレント教育の普及

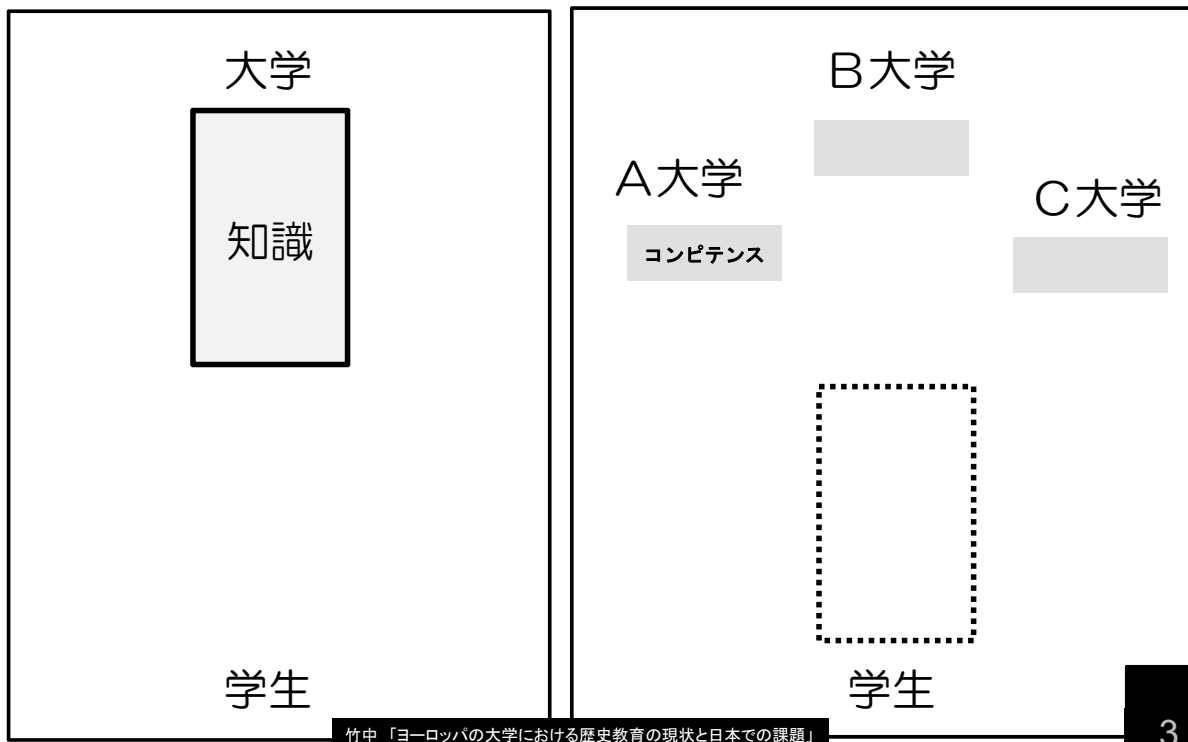
年齢・経歴・修学動機等での多様化

② 国際化の進展

教育制度・生活文化・教科知識・年齢等での多様化

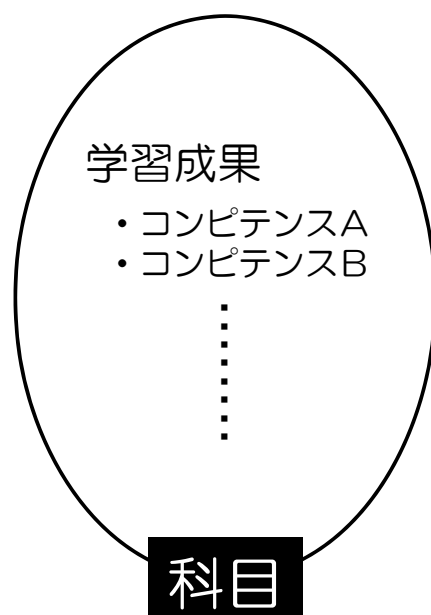
修学の断続化への対応

# 旧来の修学モデル 今後の修学モデル

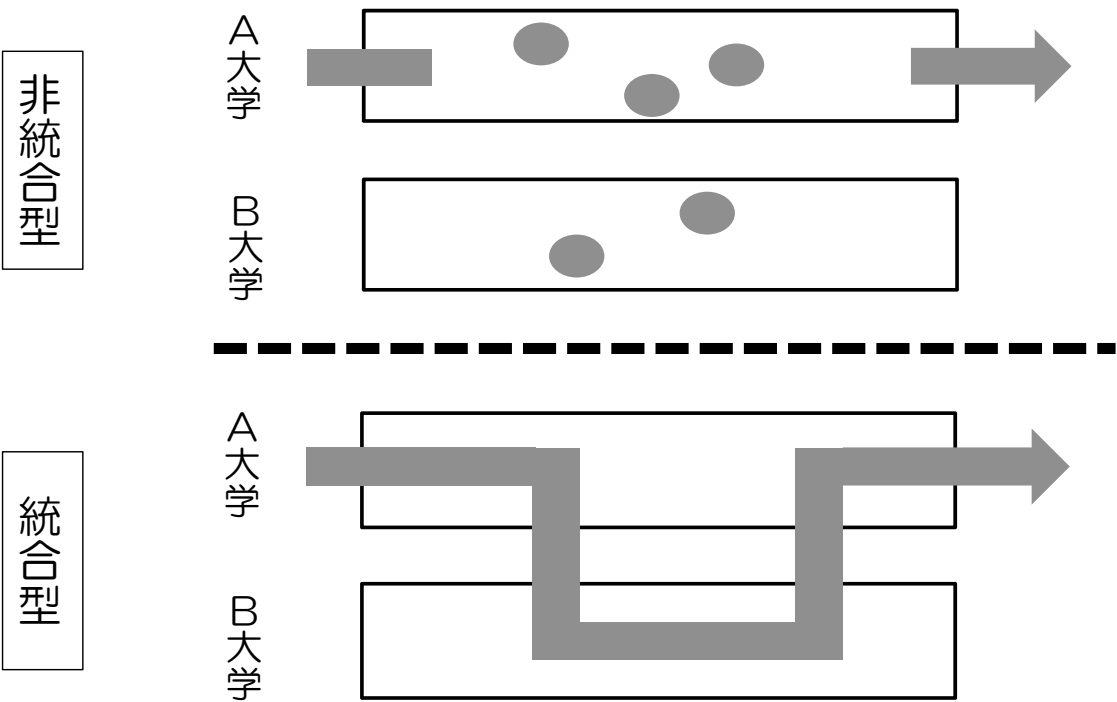


## 単位のトランスポートビリティ

- ▣ 学習内容の科目への分節化
  - ▣ 共通指標で科目内容を表示
    - 科目同士の等価性・互換性
- 共通指標：  
「学生が何を習得したか」  
学習成果=コンピテンス

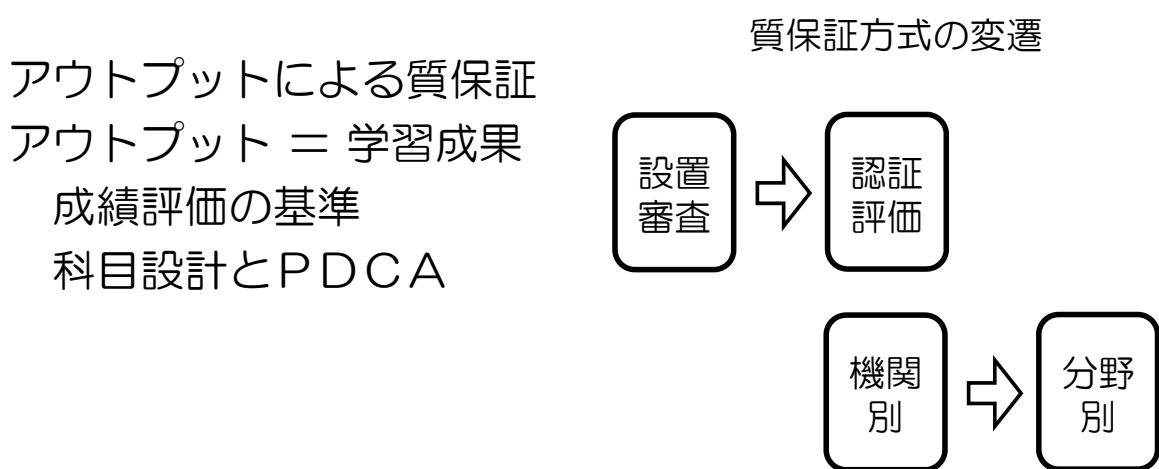


# 国際的な共同学位プログラム



竹中「ヨーロッパの大学における歴史教育の現状と日本での課題」

# 学習成果=コンピテンスと質保証



竹中「ヨーロッパの大学における歴史教育の現状と日本での課題」

# チューニングでのコンピテンス

教科ネットワークの作業

歴史学：「クリオ」

参照基準・水準指標の決定

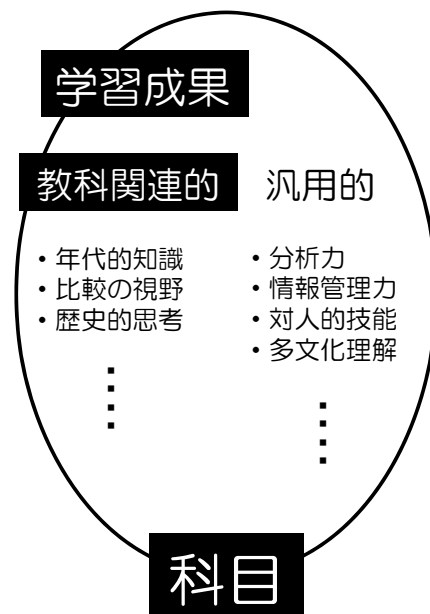
2種類のコンピテンス

➤ 教科関連の

➤ 汎用的

両者を一体的に扱う

授業手法と評価法



# チューニングと歴史学

指標・ガイドラインの決定

コンピテンスの選定

問題点：記述が抽象的

コンピテンス、評価法

授業実践との関連が欠ける

人文系におけるコンピテンスの抽象性

選定の容易さ



習得・評価の困難さ

教科関連能力 1：  
「現在の出来事や過程が  
過去とどうつながって  
いるかを批判的に  
認識する」

何を通じて育成  
するのか？  
いかに達成度を  
評価するのか？

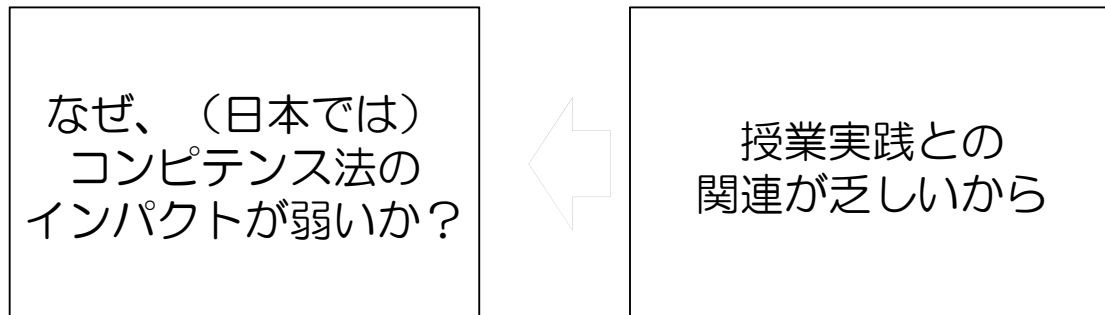
# コンピテンスの抽象性

benchmark statement (英)

評価法の曖昧さ

単なるコンピテンス選定 = 「お題目」

米の大学でのコンピテンス記述の問題点



## グローニンゲン大学での歴史授業

### ▣ 授業の標準化

教科書・ワークブックの共通化、オンライン試験

← 課程の体系性、学習成果の共有

### ▣ 学習量の明示

### ▣ 双方の（教科関連、汎用）コンピテンスの習得

### ▣ 授業手法の多様さ

プレゼンテーション、グループワーク等

教員の裁量

コンピテンスの具体化への模索

米の試み：Assignment Library

# グローニンゲン大学の オンライン試験会場



竹中「ヨーロッパの大学における歴史教育の現状と日本での課題」

11

## 日本の現状

- 高等教育の「国際語」としてのコンピテンス法
- チューニングの国際的普及（南米、露、中など）
- 米歴史学会AHAのHistory Discipline Core
- 英QAAのbenchmark statement
- 日本での取組
  - チューニング情報拠点（国立教育政策研究所）
  - 日本学術会議による参照基準
- 日本の歴史学界のインプット志向の強さ
  - 「教員」が「知識」を「教える」
- 大学間の調整・合意をはかる機関の不在

12

# 次世代歴史教育研究会の課題（案）

## 1. コンピテンスの選定

- ・ 学界への提言

## 2. 授業実践のモデル案出

- ・ コンピテンス + 学習事項 + 授業手法・教材 + 評価法

## 3. 汎用的コンピテンスの育成法・評価法

ご静聴  
ありがとう  
ございました。